

# 風の流

## ◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

初桜夕月匂うばかりなり  
心電図着けてより吹く涅槃西風  
梅一枝厨に付けて春待つや  
ペンキ塗る春めく光背に浴びて  
想い出の庭に咲きたる福寿草  
宇宙との交信続く花ぐもり  
福詣り福を授かり佳き日なり  
裏庭に人しれず咲く寒椿  
豆まきの声高らかに長屋かな  
蟹に似て生えかわる爪日脚伸ぶ  
空風や帽子飛び去る遊歩道  
雪柳可憐に伸びて娘は嫁ぐ  
寒風の中に日差しは輝きて  
初春や観音岩の波太鼓  
書長閑訪へば老犬退り込む

## ◆かがみ野俳句会◆

ふる里を恋ふる歌碑あり鳴の声  
露の葦羽織りしベール薄衣  
梅匂ふ仏間の夫におはようと  
袈裟タンスに眠り三十年  
残生もかくありたしや野水仙  
下萌の野にかすかなる水の音  
流木は骨密度一〇〇春の雪  
母の顔皺をのぼして日向ぼこ  
啓塾や黙って事を仕始めむ  
草萌ゆるメリケン波止場由来の碑

森本 純喜  
岡田美代子  
楮佐古きよ  
千頭 野草  
北村千鶴子  
山崎 貴子  
原 美幸  
白井 幸子  
小原 景守  
福留ものり  
山本 太幸  
森本 幸美  
小原 子川  
中村 辨吉  
高野 和一

佐竹 洋子  
鍵山 和枝  
佐藤 幸  
利根 弘子  
古川 信子  
小松 愛子  
中澤 美晴  
森本 健代  
山崎 鈴子  
吉田 芳

## ◆俳句会◆

春炬燵妻と見蕩れる龍馬伝  
春寒し母の残せし六神丸  
文旦の剥き方教ふ土佐言葉  
風光る馬酔木の房のゆれてをり  
廃校へがっこうばしや鴨帰る  
水よりも淡き光りの猫柳  
本堂へ先づご挨拶寺の春  
咳こぼしつづ梅園の人となる  
パン工房枯山の色麓まで  
ぎごちなき手話の通じて浅き春  
登山客行き交ふ里の福寿草  
開け放ち仏壇掃除風光る  
凜として夜を制する冬の月  
風光る宰相の像故山見る

吉村 幹愛  
公文 春紀  
岡本かほる  
高橋 章  
北村 幸子  
西川 常夫  
篠崎 垂希  
甲藤 卓雄  
野崎 典子  
北村 里子  
明石 英子  
小野川順子  
前田 芳子  
竹内 ろ草

## ◆かほく俳句会◆

畦を焼く煙に齡煤けをり  
冬耕の子は青空をひとり占め  
思案などなし剪定鋸挽き進む  
奥深く人の育てし山笑ふ  
一病の捨て処なし山笑ふ  
部屋に入る日を惜しみつつ春を待つ  
輝の血筋受け継ぐ定めなり  
老妻へ福を呼び込み豆を撒く  
入院の母より貰ふ初電話  
鷹化して鳩となりたるハイボール  
鼻の穴二つひとつに春の風邪  
追儺寺に詣で身内の緩びけり  
春雨に山の目覚めや里烟る  
淡淡と未来語りて卒業す  
日の丸に折目建国記念の日

乾 真紀子  
奥宮さとみ  
久保内鏡子  
黒岩 幸女  
黒岩千英子  
小松 完  
小松 隆之  
小松 昇  
杉山 春萌  
野村 里史  
前田 欣一  
前田 秀女  
間崎 和代  
森本 之子  
山崎かずみ

冬座敷遊びの後の襖疵  
恋猫の声の響きぬシャッター街  
食積や戦禍潜りし重箱に

山中 晶子  
山中 瑞輝  
山中 明石

## ◆土佐山田町俳句会◆

奇声あげ秋葉祭りの油売り  
車椅子ゆつくり向きかえ春の日へ  
七草の名札大きく無人店  
能面の女怖ろし冷雨の夜  
朝市の策に跳ねる春の鰯  
土未踏見せて跳ねるや田楽舞  
寒月へ後部車両切り離す  
涅槃図のまこと知るべく近寄りぬ  
春星へ女膝立て手紙燃す  
年の豆噛める固歯の残りをり

明石 蕪生  
中沢としみ  
森田 菊恵  
前田 小夜  
大石 邦男  
安丸 慎子  
前田美智子  
橋本 昭和  
樫谷 雅道  
田村 一翠

## ◆今月のキラリ◆

雪柳可憐に伸びて娘は嫁ぐ  
春風にゆれる純白の雪柳の可憐な姿。その花に嫁ぎゆくわが娘を重ね、切ない親心を詠んだ一句。

## 俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)  
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。  
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。  
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。  
▼投稿先 企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」  
〒782-18501 (住所不要) FAX 53・5958

## 香美市立美術館

# アートの窓



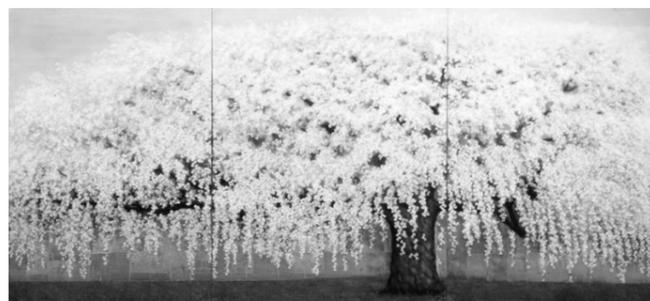
今年度最初の企画展は、季節に合わせ、桜の花を描いた作品で有名な岸田夏子(東京都在住)の絵画27点をご紹介します。

1940年和歌山県生まれの岸田夏子は、63年東京芸術大学絵画科油絵専攻(林武教室)卒業後、65年に同大学院を修了。84年東京銀座の資生堂ギャラリーから始まり、銀座・吉井画廊、日本橋高島屋美術画廊、日本橋三越本店美術特選画廊等での個展、国内外でのグループ展を中心に数多くの作品を発表してきました。99年から01年は尾道白樺美術館、00年から05年は清春白樺美術館の館長を務め、また05年には日・EU市民交流年のイベントのひとつとして、首都ブリュッセルにて個展(ベルギー大使館主催)を開催し、好評を博しました。

洋画家・岸田劉生は祖父であり、母・麗子の幼い姿

## 「2010年 岸田夏子の世界展」

4月4日(日)～5月16日(日)



▲醍醐寺の春 岸田夏子

を描いた『麗子像』はあまりにも有名ですが、岸田夏子も麗子をテーマにした一連の人物像を描いています。また、冬の雪山や秋の紅葉、春の桜と、自然をテーマにした作品も多く手がけ、その中でも、特に京都・醍醐寺の桜や、山梨・清春の桜を繰り返し描いています。描く対象への熱

く深い思いが、画面から溢れ出るようです。「刻」をテーマに、自然(人間も含む)を描いた作品では、自己を追求し、人生の深さを追い求めています。桜は人の心を表し、春に再生する花は年毎に変わっていきませんが、その姿に人間の生を重ね合わせているようです。

写真の作品は、京都・醍醐寺霊宝館の桜を描いた大作「醍醐寺の春」(162・1×354・5cm)です。岸田夏子はこの作品の制作にあたり「それぞれの土地で生まれ育まれた植物には、それぞれの歴史があり、それなりの理由があつて、今の姿があるのだとつくづく思い至らされ、深い感動とともに愛着を覚えた」と語っています。歴史ある古木の満開の桜は圧巻です。

「今年のお花見は香美市立美術館で！」ご家族おそろいでお越しください。お待ちしております。(館長・北 泰子)

## 吉井勇記念館だより

### 車月コンサート

今年もヴァイオリンの野外コンサートを開催します。季節を感じさせる日本の曲のほか、よく耳にする外国の曲が演奏されます。山里でゆつくりと流れる時間と音楽を、心と体で感じてください。

【日時】5月16日(日) 13時～13時50分  
・ヴァイオリンコンサート 14時～15時

【場所】吉井勇記念館

【参加費】400円(入館料含む)

### 【内容】

ヴァイオリン奏者：古江佐和子氏(猪野々在住)  
演奏曲：ケセラセラ・イパネマの娘・もののけ姫 他  
【送迎バス】定員20人  
※会場の人数制限はありません。自家用車でもご来場いただけます。

【問い合わせ・申込先】

市立吉井勇記念館  
58・2220

## 送迎バス運行表

(往) 香美市役所	12:00
健康福祉センター香北	12:20
奥物部ふれあいプラザ	12:40
(復) 吉井勇記念館 発	15:20

※バス利用希望者は5月10日(月)迄に記念館までお申し込みください。

## ▲昨年のコンサートの様子

